

県医労新聞

2012年3月

盛岡市内丸11番1号
岩手県医療局労働組合

電話 019-623-8271

FAX 019-623-8273

編集発行人

中野 るみ子

毎月1回発行 1860号(月刊75号)



地域医療を考える学習会in一関 (2月12日 大東町・大原公民館)

目次

- 1 P 震災から1年 被災地の職場はいま
- 2 P 地域医療を考える学習会in一関
大東町申し入れ
- 3 P 第1回団体交渉
- 4 P 東北地方協春闘討論集会
日本医労連中央委員会
消費税に反対する県民の集い
- 5 P 看護部会ニュース
青年部ニュース
- 6 P 女性部ニュース
- 7 P つぶやき、とんがらし
新春クイズ当選者
- 8 P 退職者インタビュー
- 9 P 職場川柳 懸賞パズル
3・4月の予定
お知らせ



講演する色平哲郎佐久総合病院医師

震災から1年

被災地の職場は今



高田仮設病院 病棟のナースステーション

忘れられない3月11日から1年。県立病院は、被災後も住民のいのちを守る砦として、重要な役割を果たしてきました。いま、その重要性が益々高まっています。

被災地では、地域医療の復興を願い、住民のみなさんも立ち上がっています。

被災した県立病院の現在の状況と、組合員のみなさんの思いを寄せてもらいました。



高田仮設病院の待合室

1月28日、29日に仮設病棟の引っ越しを終え、2月1日から入院患者の受け入れが始まりました。2月20日時点で20名を超える患者さんが入院しています。まだ始まったばかりということもあり、物品の不足で医師の指示に対応できず、苦慮する場面も多々あります。また、仮設のため水道管が凍り、検査が遅くなったこともあり、夜そのため凍らないように夜

高田 地域住民の思いを胸に

間、守衛さんが水道を1時間毎に流しています。

病棟のナースステーションはオープンカウンターになっていて、夜間食事をする場所が無いので、カーテンを取り付けてもらいました。

内視鏡はERCPやPE

釜石

重症化して搬送される患者さん

釜石病院は昨年8月中旬、耐震工事がほぼ終了。病棟が通常稼働となり、入院患者は、わずか半月で約200人に達しました。多くの患者は震災以降、重症化した状態で搬送され、毎日緊急入院、緊急手術、緊急検査が行われています。術後は人工呼吸器装着、複数のドレーン留置のケースが増え、それに伴い業務も超過勤務もとても増えています。退

Gも始まりました。外来患者は平均240人。

患者さんや家族は、これから近くに入院できると喜んでいますが、スタッフも地域住民の思いを胸にがんばる決意にあふれています。

2月17日の早朝集会も13名が参加。苦勞の多い中、病院のみんなが、まとまってがんばっています。

院が決まっても仮設住宅にそのまま帰すことができない患者の退院調整は、釜石圏域の受け入れ施設や病院が被災しているためなかなか進みません。独居の高齢者が褥創、骨折の状態で見られ搬送されてくるケースも目立ちます。

超過勤務の削減は、業務改善を唱えるのではなく、業務量が増えた現場に目を向けた対策が必要です。



講師の話しに思わず笑う参加者

県立大東病院が東日本大震災で被災し、入院患者の受け入れができない状態となり、さらに花泉診療所の民間法人が撤退を決めて混乱している中、「地域医療を考える学習会」が、一関市大東町で開催され、両地域の住民、地元県議・市議など150人以上が参加しました。主催者を代表して、岩手県地域医療を守る住民組織連絡会の

及川代表が、これまでの6地域に加え、大東病院の問題でもいっしょに運動していきたいと開会あいさつ。
佐久総合病院(長野県)の色平哲郎医師は「人は必ず死ぬ。坊さんが言わないので医師である私が伝えている」などと会場を笑いに誘いながら、地域医療を守るため、そこに住んでいる住民が自ら考え、行動するこ

地域医療はみんなの手で 地域医療を考える学習会 in 一関

大東申し入れ

一関市大東地域の住民代表でつくる県立大東病院早期復旧対策委員会は2月7日(火)、県知事・医療局長・県議会議長に対し、同病院の早期復旧を求める12,867名(大東地域の82%)の署名を集め、要望書を提出しました。



医療局長(中央)へ大東病院の早期復旧を訴える住民代表の皆さん(右)

この大事さを訴えました。
大東地域婦人協議会の役員は「何かしなくてはという時に大震災があった。これから考えていきたい」と発言。花泉からも運動全体の見直しについて決意が語られました。大東支部の〇〇支部長からは、病院の実態などの報告がされ、最後に大東出身でもある〇〇・いわて労連副議長が挨拶をし閉会となりました。

あれから1年 いま、伝えたいこと



病院の食堂ホールの時計は3時を指して止まったまま、震災が夢ではなかったことを物語っています。通院患者さんからは「早く入院できるようになればいいね」と病院の存続を強く望む声が聞かれます。病院の修復、医師不足と課題は山積していますが、大東病院の存続と、兼務配置で日々奮闘しているスタッフが心身共に健康であることを願っています。

大東支部 〇〇 〇〇



県立高田病院は仮設診療所を経て、2月1日から仮設病棟の運用開始の運びとなりました。軌道に乗るまでしばらくは慣れない日々が続きますが、地域の皆さまのお役に立てるようにならばいいと思います。

高田支部 〇〇 〇〇



震災から1年。何事もなく、最後は晴れ晴れとした気持ちで退職したかった。この一年間、仮設診療所で心ひとつに日々の外来業務にあたってきました。本当にすばらしい仲間と過ごせたことは一生の思い出です。その仲間が安心して働き続けられ、地域医療を守るため県立大槌病院新築を願っています。

大槌支部 〇〇 〇〇〇



震災当初、避難所を回りリハビリ・サポートをしてきました。昨年6月1日から理療士が1名減の2名になって大変な毎日です。7月4日から仮設診療所に移りましたが、被災者の医療費免除が終われば、患者さんが来院できなくなるのではないかと心配です。

山田支部 〇〇 〇〇

年次目標・増員求め本部団交

～人員不足認める医療局長～



答弁する医療局長(右から4人目)と各課長

2月15日の本部団体交渉では、冒頭に中野委員長が、年末年始をはじめとした労働条件の改悪、夜勤専従看護師募集の強行に対し、改めて抗議しました。

大東病院の再建

本格的な病院再建へ向けて、今後の見通しについて追及しました。特にも大東病院の再建を巡っては、医療関係者による会議や懇談会が開催される一方、住民による病院再建を求める署名が取り組まれるなど、い

まだ明確な方針が示されない中で、不安ばかりが募る状況です。

回答では、懇談会などの議論では、「リハビリは千厩病院へ」との意見があるとし、病院のある大原地区には病床が必要との認識を示しました。

花泉地域診療センター

本年4月から県営となる方針が示されたことを受け、民間移管からわずか2年で頓挫した責任は、医療局にもあるとして追及しました。

局長からは、一切反省や謝罪の弁はなく、「今後も民間移管はあり得る」とし、「今回のことはきちんと検証し次に繋げたい」と述べるに留まりました。

年次、増員要求

年次取得率が低下している実態を追及し、医療局として年10日取得するなどの目標を掲げるよう迫りました。年次取得率低下の実態、



職場改善を要求する委員長(右から4人目)と各中執

監督者に年次を与えるか与えないかの裁量権があるわけではないことを指摘し、きちんと指導するよう強く求めました。

36協定改善要求

協約が守られていない職場実態についての認識をただし、改善を申し入れた5項目について再度回答を求めました。

取得しづらい状況は認めましたが、医療局として目標を掲げることについては、「目標を掲げたからといって取得できるものではない」「人を増やすことでしか解決できない」としました。事実上、職場での人員不足を認めたものですが、具体的な改善策については示されませんでした。

組合では、「年次をあげられない」と請求すらできない職場実態を訴え、年次は労働者の権利であり、職場

組合では、「現任者へも改めて委員会や会議などの機会を捉えて周知する」ことを約束させました。

大震災と原発事故から

立ち上がるう

東北地方協・春闘討論集会開催

日本医労連東北地方協・春

闘討論集会は2月4、5日の二日間、盛岡市繋温泉「ホテル大観」で開催されました。

日本医労連の山田真巳子委員長は、挨拶の中で「被災地復興は、賃上げなしにあり得ない。安心できる生活のために闘っていく」と春闘の決



挨拶する日本医労連の山田委員長

意を語りました。

記念講演は東北学院大学元助教授の川端純四郎氏が「大震災と原発事故から立ち上がる『普天間消費税・T・P・P』と題して行いました。川端さんは25歳の時、宗教哲学を学ぶために、ドイツへ渡航。その際アジア、アラブでの植民地支配による飢えと貧困を目の当たりにし、宗教で片付かない問題がある事を痛感。経済学を学ぶきっかけとなりました。

講演では、原発を取り巻く歴史的な経過やT・P・Pの背景など分かりやすく述べました。その中で、原発も普天間基地も消費税もT・P・Pも、アメリカと大企業のためであることを明らかにしました。



記念講演の川端純四郎氏

特別報告は4題報告され、岩手からは〇〇書記長が「岩手県立病院の再建に向けて」と題し行いました。その後、分散会(1〜4)、青年代表者会議、看護代表者会議が行われ、翌日も引き続き、交流と討論が行われました。看護代表者会議は、ある病院の勤務表をめぐり、意見が集中。労働条件改善に向けた課題となりました。全体の参加者は159名、県医労からは3支部・本部14名が参加しました。

義援金を追加支援 日本医労連第43回中央委員会で採択

2012年の春闘方針を決める日本医労連第43回中央委員会は1月25〜26日の二日間、東京の「ホテルラングウッド」で開催され、全国から132名が参加しました。

〇〇書記長からは春闘方針と併せ、東日本大震災で日本医労連に寄せられた義援金を、被災家族1世帯1万5千円追加支給することが提案されました。討論では労働条件や社会保障、組織拡大、被災3県からの報告など27本の発言があり、全員一致で方針を採択しました。

消費税増税は許さない！

教育会館に750名集結！

2月5日、「消費税を考える県民のつどい」が岩手教育会館大ホールで行われました。寸劇や大門参議院議員の講演では、時折会場から笑いが起こり、被災地からの特別報告では、消費税増税は「復興とは相容れないもの」との訴えがありました。つどいを知らせる岩手日報・意見広告には2300名以上が賛同を寄せました。



寸劇でよくわかる消費税は悪税



講演する藤田和恵さん

「2012年看護・介護職員全国交流集会」が2月11、12日、静岡県伊東市で開催され、全国から295名が参加し、県医労からは5支部・本部6名が参加しました。

日本医労連の山田真巳子委員長は挨拶で「昨年の地域キャラバン行動で増員、

増員と夜勤改善へ向け交流 厚労省の課長が「5局長通知」の講演

夜勤改善などを求めて全国1797議会中706議会に請願し351議会で採択された。勤務の過密化や職員の離職で被害を受けるのは患者。医療を守るために患者を守るためにこの運動の推進を」と呼びかけました。

記念講演は「いのちを守る人びと」―その実態と労働組合に期待すること―と題してジャーナリストの藤田和恵さんから、医療現場を支える非正規労働者の多くが、ワーキングプアで働いている実態などが話されました。

学習講演は、厚生労働省労働基準局・労働条件政策課長の〇〇〇さんが「看護師等の『雇用の質』の向上



厚労省の〇〇課長

に関するプロジェクトチーム報告書と関連通知に基づく取り組みについて」と題し行いました。5局長通知の背景と今後について述べ、「各県で温度差があるが、来年度も予算がついた。継続して行っていく。今後さらに協力して、一緒に成果を喜び合いたい」と強調しました。

2日目は看護・介護の分散会・5局長通知をテーマにした分科会が行われ、全国の状況を交流しました。

丸ごと蟹1パイと温泉でほっこり交流

青年部ブロック交流会

2月5～6日(日・月)に南部&三陸ブロック集会、2月19～20日(日・月)に北部ブロック集会が開催されました。

両ブロック集会とも、盛岡市つなぎ「ホテル紫苑」を会場に開催し、南部&三陸ブロックは中村青年部長を講師に「診療報酬から診るコメディカルの仕事」



インフルエンザ予防にカニマスク(北部)

について学習しました。普段の自分の仕事と診療報酬とを照らし合わせて驚いたり、今まで知らなかった他職種の業務内容についても知る機会となりました。

北部ブロックは東森青年部書記長を講師に「36協定」について学習しました。

夕食交流会では「ズワイまるごとプラン」で蟹を丸ごと食べ尽くしました。

ストレス解消で アンチエイジング

岩手医労連 第53回女性労働学校



岩手医労連女性労働学校が2月18日、水産会館を会場に行われ、全体で78名（県医労9支部・本部23名）が参加しました。

午前は講座が行われ、第1講座は、日本医労連の中部千香子さんを講師に「5局長通知」について知識を深め、職場の問題を解決していく上で交渉に役立てていくと確認しました。



第2講座は「ちぎり絵」講座。新聞のカラーページを利用し、色の濃淡をうまく使いながら、絵はがきを完成させました。多い人では



上から、午後の講演、「ちぎり絵できました」と遠野・釜石の皆さん、フィットネスで身体ポカポカ

4枚も作り、「年賀状に作ってみたい」「新聞のカラーの

**医療・介護に期待するもの
自分を大切に！**

フリーアナウンサーとして「はなまるマーケット」などに出演していた今泉さんは、幼い頃から病気がちで、入院や通院が絶えず、医療従事者の労働環境などを目の当たりにしてきました。看護師の過酷な労働に、「看護師が過労死するようではいけない。もっと自分の身体を大切にしてほしい。働いている人が燃え尽きない環境を作っていかなくてはならない」と話しました。また、「厚労省が『患者様』と言い出した頃から



今泉 清保さん

医療はサービス業になってしまった。医療はサービス業ではない。小さな反対運動を大きな運動に変えていきましょう」と話されました。

ページは捨てられないかも」などの感想が寄せられました。

第3講座は健康づくり講座で、フィットネスとアンチエイジングを融合させた「モナリザ・エクササイズ」を体験しました。ストレッチ、足、頭、顔のマッサージなど、全身のアンチエイジング方法を学び、全身ポカポカになり、貴重なリラクソスの時間となりました。

つづき

昨年、震災から始まり、勤務地も変わって、不安と緊張、精神的にも体力的にも大変な1年でした。3月までの兼務辞令ですが、今年もどうなるのか…。

磐井支部 ドキンちゃん

年末年始、頑張った反動が風邪という形で返ってきました。しっかりと休養して、スノボ楽しむぞ!!

南光支部 ゴネオ

放射能の影響が、岩手の私たちに及ぶことになるなんて思いもよりませんでした。父母はシイタケ栽培を行っています。放射能の影響で物が売れず、来年は栽培もできそうにないと話していました。原発事故はどこまで私たちを、生活を苦しめるのでしょうか。

磐井支部 ベガ

昨年、行ってきたNAND Aはな〜に? 今度は「標準看護計画」。どれが患者さんのためになつているのでしょう???

磐井支部 ツララ

夜勤をできる人が少なく大変です。スタッフを増やしてほしいと願っています。

中央支部 クルクル

新春クイズ 当選者発表

新春クイズには45名の応募があり、全員正解でした。厳正なる抽選の結果、次の20名が当選されましたので図書カードを贈ります。

新春クイズ当選者(敬称略)
みかん娘(一戸支部)、クルクル、じゃがいもの(宮古支部)

年末年始夜勤して、年次がほしいのに希望叶わず。心と体に元氣下さい。

一戸支部 みかん娘



花、リラックマ、KYT、エグゲタルト、100%のかまきり(以上中央支部)、虫ピン(中部支部)、うなぎ、ミニーちゃん、プロプロ(胆沢支部)、ベガ、ツララ、ドキンちゃん(磐井支部)、シラネアオイ、まぐろ(南光支部)、はなちゃん、ジャンボウさぎの妻、匿名希望(大船渡支部)、ARASHIC(宮古支部)

とんがらし

3月11日14時46分。大槌病院の病棟では、病室のドアとベッド、両方同時に押さえなければならぬくらい大きく揺れた。山田病院では余震が続く中、町の防災無線が大津波の予報を知らせた。高田病院では「津波が来るぞ」の声の後、ものすごい音とスピードで黒い巨大津波が病院に向かってきた。患者さんの誘導と搬送を優先し、大槌でも山田でも高田でも必死に屋上へ避難した。3月とは言葉、凍えるような寒さの中、すぐに空は暗くなった。病衣を重ね着しても、ビニール袋に頭と腕の穴を開け上衣にしても、紙おむつを巻き付けても、寒かった。暗闇の屋上で看護ケアは続けられた。誰も、自分の家族の安否を口にする事はなかった▼12日。夜は明けて、自衛隊ヘリがきたのは高田病院。防災無線が通じたからだ。大槌病院上空では、ヘリコプターが現れたものの素通りだった。山田病院では2階病棟に避難し、患者さんを

次の病院まで搬送し終えたのが16日。水道も電気も停止状態。廊下はがれきと泥で埋まっていた▼内陸の病院でも、重油や食料など必要な物資が遮断された。医療局は県庁の一室に対策本部を設立。昼も夜も情報収集と、物資の調達に明け暮れた。被災地・医療従事者の負担軽減をと、内陸部からの人的応援も続けられた▼スーパーでも品薄が顕著となった。ガソリン不足は出勤の足を困難にし、病院へ泊まり込んだ。わずか10リットル購入するために、何時間も並んだ▼組合は、4月1日の人事異動を凍結・延期せよと交渉した。全国からの抗議ファックス320通以上を手交するも、かなわなかった▼たくさんの数え切れない、哀しくつらい出来事があった。それでもみんなはあたりまえのように出勤し、いつものように仕事をした▼力になりたいと思っても、無力さを痛感する日々。それでも、つながりがいつも元気づけてくれた。元気をもらっていたのは、むしろこちらの方。被災地での暮らしや労働環境、これからもずっと思い続けていくよ。(な)

退職者インタビュー



〇〇

〇

さん(久慈支部)



ひとりで悩まず 仲間をつくって元気に

ギタリストとしても有名な〇〇〇さん。
1973年(昭和48年)、21才で診療放射線技師として入局しました。中央病院をはじめ宮古、大東、久慈病院に勤務し、この春定年退職を迎えます。
組合だけでなく、政治にも関心を持ってやってきたからこそ、正しい道を歩んでこれたと39年間の活動を振り返ります。



組合に入って当たり前

私が採用された頃は南光闘争があり、組合に対する監視も厳しく、立っていった組合旗を持って行かれたり、ステッカーを剥がされるなど不当な組合攻撃や、不当転勤にあう人が多くいました。でも、「組合に入るのが当然」という雰囲気、2年目には青年部長も努めました。



組合の輪が広がった 保育所運動

また、保育所づくりが始まった頃で、民家を借りて保育所を始めました。財政活動としてビーパーティなどを開催して、みんな一生懸命でした。保育所のつながりで、組合員が拡大されていきました。組合の役割



仲間をつくって 元気に活動を

は大きかったと思います。この時は、看護師不足の時、「看護師増やせ」の運動が広まっていった時期でもあります。

組合活動が大変だったと思ったことはありません。必要に迫られていたし、自分たちでやっていかなければという気持ちでした。結果もついてきた。今は要求が獲得しにくいから辛いと思いますね。
オイルショック、バブル崩壊などいろいろありましたが、政治・経済面でも、先を見て組合方針が決定され、それが正しいと思いやってきました。そういう面ではブレずにやってこれたと思います。組合、政治、どちらか一方ではなく、両方やれ



趣味はフラメンコ・ギター

ギターは中学からやってきました。岩手県フラメンコ協会が去年立ち上げられ、被災地支援として、ダンサーと一緒に小友町の公民館で演奏しました。100人くらい集まってくれました。これからも続けていきたいと思っています。

だから、正しい道を歩いてこれたと感謝しています。若い人には、世の中、職場など、いろいろな面で自己主張してほしいし、そのためにも学習、交流してほしいと思います。一人でなんとかしようと思わず、仲間をつくって、元気になるってほしいですね。

退職される皆様へのご案内

退職者を励ますつどい

と き 4月22日(日)～23日(月)

ところ 秋田県仙北市
「たざわこ芸術村」

内 容 ●わらび座 観劇
●手作り体験または
角館武家屋敷散策
●田沢湖ビールで昼食

職場川柳

◇増税より 政党助成 見直しを

◇海兵隊 移転費用は 日本負担
(政党の自立を求める人)

◇いつもとは 違う春待つ 寒椿

◇人員の 不足が年次の 取得下げ
(年次と縁のない人)

◇TPP とんだペテンの プログラム
(医療人)

懸賞パズル

上下どちらかの絵に7つの間違い箇所の印をつけ、ハガキに貼付して、応募して下さい。正解者の中から、抽選で10名の組合員に図書カードを送ります。送り先は〒02010023 盛岡市内丸11「県医労」懸賞パズル係まで。締切は3月末日(必着)です。また、抽選には関係ありませんが、ハガキの余白



まちがいハ7



に「つぶやき」(職場の話題など何でも)を、ぜひ一言お書き下さい。県医労新聞で紹介する場合がありますので、匿名希望の方は必ずペ

ンネームをお書きください。ただし、当選した場合は、記念品の送り先が必要となりますので、支部名・本名の記入をお忘れなく！

3月の予定

3日(土)～4日(日)

岩手医労連組織拡大医労連共済
担当者会議(紫苑)

4日(日) 東日本大震災大津波1年岩手県集会
(水産会館)

8日(木) 国際女性デー岩手県集会(勤労福祉会館)

11日(日) なくせ原発！震災・原発事故からの復興を 3.11
全国一斉行動

22日(金) 拡大支部長会議(水産会館)

4月の予定

13日(金)～15日(日)

岩手医労連青年部被災地支援
ボランティア活動

21日(土)～22日(日)

日本医労連2012年役員セミナー

22日(日)～23日(月)

退職者を励ますつどい(たざわこ芸術村)

28日(土) 支部長会議(県民会館)

